緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 2013 年 11 月 14 日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体

日本緩和医療学会(厚生労働省委託事業)

緩和ケア普及啓発事業(オレンジバルーンプロジェクト)

企画名

緩和ケア普及啓発事業 地域イベント関連企画 in 関西

『診断時からの緩和ケアをいかに提供していくか?』

事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)

チラシ・ポスター配布(同事業企画東京シンポジウムでの配布、各施設への配布)、SNS等。

当日の実施内容について

日時(期間)	2013年10月14日(月)13時~17時 (1日間)
実 施 場 所	AP大阪駅前 APホール
参 加 人 数	75 名

具体的な実施内容:

平成24年の「がん対策推進基本計画」の見直しにより、緩和ケアは「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」として、引き続き重点的に取り組むべき事項として掲げられました。そして、より早い時期から適切に緩和ケアを提供していく体制を整備していくことが求められています。

この課題に医療従事者として取り組むために、「診断時からの緩和ケアをいかに提供していくか?」をテーマとして、今回、医療従事者を対象とするシンポジウムを開催しました。

がん治療医であり、緩和ケア医でもある医師と、がん患者・家族の苦悩や苦痛の軽減に携わるがん看護専門 看護師、臨床心理士、薬剤師により、診断時からの緩和ケアに対する正しい知識や実際の取り組みについて、 また患者・家族の立場からは、現状から医療者へ求めていることについて基調講演が行われました。

シンポジウムでは、医療者と患者・家族の立場から、診断時からの緩和ケアに関して、フロアからのご意見なども交えながら、各施設や職種での取り組みを共有し、医療従事者は何ができるのか、何をすべきかについて具体的な取り組みについて話し合いました。

<プログラム>

13時~13時20分 オレンジバルーンプロジェクトとは

濵 卓至(大阪府立成人病センター 心療・緩和科)

13 時 20 分~15 時 基調講演『診断時からの緩和ケアとは』

司会:池永昌之(淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院)

治療医・緩和ケア医として:川島 正裕(市立岸和田市民病院 緩和ケア内科部長)

がん看護専門看護師として:吉田智美(滋賀県立成人病センター看護部がん看護専門看護師)

臨床心理士として : 厚坊浩史(奈良県立医科大学付属病院緩和ケアセンター 臨床心理士

薬剤師として : 千原里美(市立伊丹病院薬剤部 緩和ケア薬物療法認定薬剤師)

患者・家族の立場から : 前川 育(NPO法人周南いのちを考える会 代表)

15 時~15 時 20 分 休憩

15 時 20 分~16 時 50 分

シンポジウム 『診断時からの緩和ケアをいかに提供していくか?』

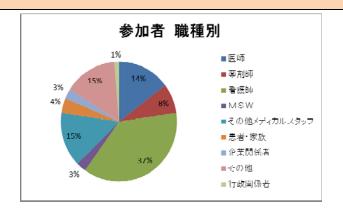
司会: 濵 卓至(大阪府立成人病センター 心療・緩和科)

小山富美子(近畿大学医学部附属病院 看護部)

効果について(アンケートの結果など)

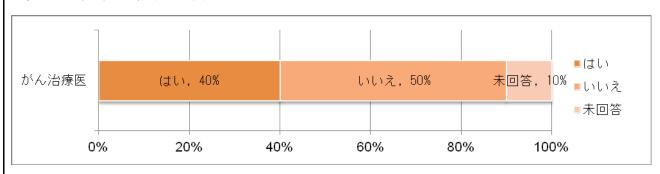
【参加者の内訳(n=75)】

医師 11 名 (14%)、看護師 28 名 (37%)、 薬剤師 6 名 (8%)、MSW2 名 (3%) その他メディカルスタッフ 11 名 (15%)、 患者・家族 3 名 (4%)、企業関係者 2 名 (3%)、 行政関係者 1 名 (1%)、その他 11 名 (15%)



【アンケート結果】

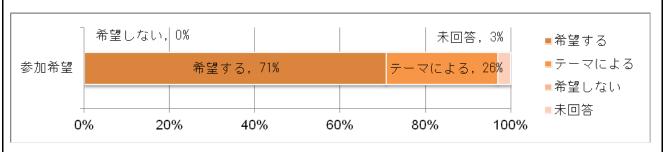
〇参加した医師の内訳(n=10名)



〇「本日のシンポジウムの内容についてお聞かせください。」(n=65 名)



○「今後も緩和ケアに関するイベント(シンポジウムなど)に参加を希望しますか」(n=65 名)



その他報告

<会場およびミニブースでの、資材を用いた普及啓発活動報告>

【ミニブース】

- ・今日の健康 50 部持参⇒32 枚配布
- ・スマートブリーフ 50 部持参⇒37 枚配布
- ・相談カード 50 枚持参⇒21 枚配布
- ・リーフレット(印刷対応) 50 枚持参⇒17 枚配布
- ・ポスター 50 枚持参⇒23 枚配布

シンポジウム参加者、およびシンポジウム参加者を介して一般国民への緩和ケアの普及啓発を目的と して、ミニブースを設置し、普及啓発資材を配布しました。当日は参加者が、『今日の健康』に掲載され た緩和ケアに関する説明文32枚、スマートブリーフのパワーポイントの印刷37枚、相談カード21枚、 リーフレット 17 枚を持ち帰りました。スマートブリーフの資料は、緩和ケアセミナーなどで利用するな ど、医療従事者に緩和ケアの知識を伝える際に利用しやすい点や、『今日の健康』は、一般国民が読んで わかりやすい言葉で書かれているため、患者さんやご家族への説明に用いやすいことや外来などで配布 しやすい点をブースでお伝えすると、持ち帰るシンポジウム参加者も多くありました。

※公式ホームページ(緩和ケア.net)への掲載について

(掲載してもよい ・ 掲載しないでほしい)

●チラシ (両面)



●当日風景





